

建学の精神のもと、一人一人の学生を大切に、社会に有為な人材を育てる確かな教育と研究の充実に取り組んできました。同時に堅実な経営に努めてきました。

学校法人奈良大学 理事長

市川 良哉 氏



2018年12月12日、奈良大学・応接室にてインタビュー

▶ 経済的に恵まれない青年の勉学を支援

— 学校法人奈良大学の創立の経緯をお伺いしたいのですが。

学校法人奈良大学の始まりは、大正14年（1925年）、我々が学祖と呼ぶ創設者藪内敬治郎先生が、向学の精神に燃えながらも経済的に恵まれず進学できない青年たちに、私財を投じて夜間5年制の南都正強中学を創立されたことに遡ります。

最初の頃は、小学校を卒業した人から随分年配の方まで幅広い年代の方がおられたようです。職業も農業や吏員（地方公務員）、巡査など様々でした。その頃の生徒は非常に優秀で、生徒の中には東大の法学部に入った人もいます。

生徒は無月謝で通学し、先生方は無報酬で教壇に立ち、生徒たちに直接向き合い指導されました。

藪内先生は教育への高い理想と青年への深い愛情をもち、「努力すること」の大切さと「正しき

に強い人であること」を力説されました。これが建学の精神として、今に受け継がれています。若い人たちに対する藪内先生の限りない愛情の言葉、激励の思いが込められていると思います。

— 戦後、どのように歩んでこられたのですか。

戦争を挟んで生徒も少なくなり、いろいろと苦難の歴史がありましたが、1948年の学制改革により新制高等学校（現在の奈良大学附属高等学校）へと移行し、高度経済成長期に人口の増加に伴い生徒数も増えていきました。その後、1967年に正強学園幼稚園（現在の奈良大学附属幼稚園）を、1969年に奈良大学を創設しました。

奈良大学附属高等学校は、旧制南都正強中学以来90年以上の歴史と伝統を誇ります。2018年の出来事と言えば、野球部は夏の甲子園に出場し、剣道部は3月の全国大会で男子団体3位という戦績を収めました。

— 市川理事長は、どのような経緯から奈良大学で教鞭をとられるようになったのですか。

最初は高校の教員からスタートしました。私が龍谷大学の大学院生の時、駅のホームで卒業した中学校の元校長さんにお会いしました。当時、退職後に西大寺にあった正強高等学校に来ておられたのですが、その方からお誘いの声を掛けられ、何日か経って高等学校へ伺いました。

そこでお会いした藪内先生からお誘いを受け、1960年から教員としてお手伝いすることになりました。また、藪内先生のご長男である藪内烈夫^{よしお}常務理事から、大学をつくるので手伝ってほしいかとお話で、お手伝いすることになり、それがそのまま現在に至っているわけです。人の一生というのは、分からないものですね。

— 奈良大学では何を教えておられたのですか。

龍谷大学で仏教を中心に宗教の勉強をしていました。奈良大学では宗教学や哲学を教えていました。大学の時は、特にインド仏教の原典を研究し、チベット^{だいぞうきょう}大蔵経の中の一部の原典を取り上げて翻訳して研究をしました。

余談になりますが、学生時代に長尾雅人先生のチベット語の文献講読の授業を5年程受けたのですが、「チベット語に翻訳された仏典をチベット語として読むな、原語のサンスクリット語に還元して読め」と言われました。原語に戻して読むという、そのような読み方の指導を受けました。私にとって目からウロコの感じでした。当時の体験を踏まえて、文献・史料の読み取りが大事であると考えています。

▶ 建学の精神を守り、堅実経営に徹する

— 理事長に就任されてから、いろいろなご苦労もあったのではないのでしょうか。

運営の問題や財政の問題など、いろいろと難しい問題がありました。簡単な道のりではなかったですね。理事長就任前の奈良大学の移転や学部増設、大学院開設、高等学校の全面移転など、資金

的にも難しい事業でしたが、前任の大浦茂雄理事長の手腕で実現できました。前理事長は中興の祖だと思っています。

1999年から私が理事長をお引き受けすることになり、それから20年近く経っています。この間、課題として取り組んできたのは、建学の精神のもと、一人一人の学生を大切にして、社会に有為な人材を育てる確かな教育と研究の充実でした。卒業生が色んな分野で活躍されているのはうれしい限りです。同時に堅実な経営に努めてきました。

— 堅実とは、財務的にという意味ですか。

理事長になってから一番心がけていることは、今も申しましたが、人材育成と財務基盤を堅固なものにするということです。安定した運営が困難になると、学生は安心して勉強できません。また、教職員の生活も安定せず、満足な教育研究も行えなくなります。財務基盤の強化、安定した経営は大事なことだと考えています。



少子高齢化が進行し、大学進学年齢の18歳人口の激減が顕著となっています。1992年に205万人であったのが、2018年には118万人に減少し、更に2033年に101万人、2040年には88万人に減少する見通しです。大学進学率は上昇しても、進学者数は減少すると予測されます。

一方、1992年時点で18歳人口205万人に対して国公立大学は523校でしたが、2018年の大学数は782校（私立大学は603校）に増えています。

日本の高等教育の8割近くは私学が背負っているわけですが、日本私立学校振興・共済事業団の発表によると、2017年度時点で私立大学を運営する555法人のうち13法人が2020年度末までに破綻のおそれがあり、2021年度以降に65法人が破綻するおそれがあるとされています。

18歳人口の激減によって日本の高等教育機関は大変な時代に直面しています。破綻を来すという、そんなことが絶対あってはならないという思いです。

▶埋蔵文化財調査報告書の蔵書は日本随一

——奈良大学はアットホームな雰囲気ですね。

人柄が非常に良い、素直な学生が多いです。通信教育部を除いた学生数は2300人程で、その約3割が県内出身です。

真面目に勉強している学生も多く、卒業生の就職先をみると、大学の教員になっている学生も多いです。地理学科だけでも、現役の教員として活躍している人が十数名おり、中には南カリフォルニア大学の先生になっている人もいます。

——大学ではフィールドアクティビティを重視されているようですね。

本学では体験学習と言っております。実物に触れることが大切です。そうした授業が行われています。今までも対外的にはいろんな活動を行っています。

例えば、レバノン共和国の考古総局と大学との間で契約を結び、2004年から4年間、ティール市郊外の壁画地下墓の保存修復研究事業を行いました。先方から要請があったもので、大学側の負担で教員や学生を派遣しました。私も同国を2回訪れ、古代ローマ時代の壁画が残っているのを見て大変驚きました。

また、モンゴル国科学アカデミー考古学研究所と学術協定を結び、2009年～2014年までモンゴル国で遺跡の発掘調査及びデジタルアーカイブ(*)を行い、学生たちも参加いたしました。2014

年にはイギリスのセインズベリー日本藝術研究所と学術交流協定を結びました。

*有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

海外だけではなくて、例えば現在継続して史学科の先生方が学生を引き連れて、山添村の古文書の調査・保存を行っています。また、地理学科では斑鳩町や王寺町、平群町などと連携協定を結び、地域社会の発展につながる取組みを行っています。

——大学の総合評価誌「2019大学ランキング(*)」の大学図書館部門で1位になられたそうですね。

*学生1人あたりの蔵書数、新入荷冊数、貸出冊数、関連年間予算の4項目を指数化し、総合評価を算出。

日本考古学協会から専門資料の一括寄贈先に選ばれ、2014年に埋蔵文化財の調査報告書を中心に約6万3千冊の寄贈を受けました。

元々、考古学や歴史学の本は充実しており、調査報告書は西日本を中心に全国屈指の水準でしたが、今回の増強でエリアも全国に拡がり日本随一の所蔵となりました。

外部委託していた一時的な保管やラベル貼りなどの登録作業が今年すべて完了しました。全冊をリニューアルした日本考古学協会寄贈図書専用の収蔵庫に配架しており、全国や海外の研究者や一般の人も閲覧可能です。

▶奈良らしさを活かした通信教育部

——大学の通信教育部は、再度学びたいという人を広く受け入れようということですね。

そのとおりです。2005年からスタートしました。高等学校卒業であれば、どなたでも入学可能です。通信教育部の文学部文化財歴史学科の学生数は約1200名で、ほかの大学や短大を卒業された主婦や、役所にお勤めの方、医師、エンジニアの方など多く学ばれています。

また、出身地をみると関東の人が多く、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、の4都県で全体の4割を占めています。その方たちから「これが京都だったら来ない、奈良だから奈良大学に来ている」と

いうご意見をいただいています。

通信教育部は、18歳人口が激減していくなか、大学の特色と奈良の立地を有効に活用した特色ある学部学科です。

通信教育部の学生さんは極めて熱心で、非常に勉強意識が強いです。例えば年に数回あるスクーリングの際に教室の前の席から座っていかれます。

—— 学生時代とは異なり、自分でお金を出して自分の意志で学ぶため、思い入れが違いますね。

大学卒業には124単位以上の履修が必要ですが、その内30単位はスクーリングで取らないといけないので、在学中に年に何回か奈良に来られます。

大学を卒業された方は、専門科目だけの履修で済むため、最短2年で卒業される方もいます。

80歳代後半の方やご夫婦で在籍されている方もいます。通学部を卒業したご子女のご父母が、通信教育部に入学されているケースもあります。文化財学科の在学生のお母さんが、楽しそうにしている娘さんの様子に感化され通信教育部に入られました。通学部を卒業したご子息のお父さんが通信教育部を卒業されたのですが、ご子息と同じ指導教授であったと喜んでおられました。こうして親子が共に学ぶ大学というのはいいですね。ま

た、開業医のご夫婦が2年間で一緒に卒業されました。その卒業式当日の付き添いは、4月から中学生になる、お嬢ちゃんでした。その微笑ましい光景を見て、私は感動しました。

▶ 大学創立 50 周年記念に向けて

—— 50周年記念で新棟を建設されるそうですね。

2019年に大学創立50周年の慶事を迎えるに際し、学生の自発的・能動的な学修を支援するためのアクティブ・ラーニング^(*)に供する新棟建設を進めており、9月に竣工予定です。

* 教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養う授業手法。

グループ研究やディスカッションなどに活用できる小さな部屋のほか、教員志望の学生がいろいろな情報機器を実際に扱って教育実習の練習を行うこともできます。また、色んな学会などにも利用できるよう、200人程度収容の講義室（小ホール）も設置します。50周年記念事業の一環として、できれば地域の方々に大学を開放するプログラムとして「奈良大学シニアカレッジ」（シニア世代対象の学び直し講座）などを開設したいと考えています。



50周年記念の一つの特色として、新棟の一角に等身大の四天王像を安置する予定です。10年程前に聖徳太子ゆかりの額安寺（大和郡山市）から、阪神大震災等により崩れて大幅に傷んでいた四天王像を譲り受け、文化財学科の文化財修復実習授業の一つとして修復を行ってきました。その修復が完了いたしましたので、新棟に安置します。

—— 大学内に四天王像が安置されるというのは、素

晴らしいことですね。

それも大学の特色になるかと思います。また、彫刻家・太田昭夫さんのご遺族から寄贈していた鹿の木彫を本大学博物館（博物館相当施設として奈良県の指定を受けている）に収蔵していますが、そのうちの一部も新棟に展示する予定です。

▶親鸞の生き方の中に真理を見出す

— 高校で国語の教師をされながら、天理のお寺のご住職もされていたようですね。

父が早世しましたので早くからやっていました。世襲制のお寺でしたから、跡を継ぐことは至上命令のようなものでした。

「なんでこんなところに生まれたのか」と若い時から悩み、非常に虚無的な時代もありました。そういうことで随分悩んでいた時期に、幸いによき師友に恵まれ導かれました。

そうした頃、文芸評論家、亀井勝一郎氏の『現代人の遍歴』という本を読み、たいへん衝撃を受けました。「私は今日のいかなる宗派宗教をも認めず…親鸞たゞひとりに直結する浄土真宗の信徒なのである。私の三十代は戦争の悲痛のうちにすぎたが、その悲痛裡に邂逅したのが親鸞で…半生における重大事件であった」という文章は心に沁みる思いでした。

私どもの寺は浄土真宗本願寺派で、親鸞の流れを汲んでいるのですが、こうした本に出会ったことなどもあり、親鸞の教えに大きく導かれました。

根本的に生まれ変わるような生き方ですね。宗教的には回心というのですが、大きな心の転換を経験しました。

当時に読んだケルケゴールの『死に至る病』（岩波文庫）の解説に読んだ「根本的なことは、私にとって真理であるような真理を見出すことである。そのためになら私がいつでも生きかつ死ぬことができるようなその理念を見出すことである」というケルケゴールの若いときの日記の一節も私の心に響きました。

そのために生き、かつ死ぬことのできるような真理を、親鸞の生き方の中に見出すことが大事だと思っています。それがお念仏です。そういうことからいうと、僧侶と学校の教員との活動の二つが別にあるわけではなく、生き方としては一つのことだと考えています。

ソクラテスは、「単に生きるのではなくて、よりよく生きることが大切だ」と言っており、そういう生き方が大事だと思っています。

▶若者が集うまちづくりを

— 奈良県経済について、ご意見をお伺いできたらと思うのですが。

日本全体で人口が減ってきていますが、地方の人口が減り、だんだんと衰えていく、地方が朽ちていくという問題に直面しています。

若い人がいないと街が活性化しません。本学を卒業して地元に戻っていくケースがありますが、奈良県経済の活性化には、若い人の奈良県への流入を増やす必要があります。

奈良県内には私立大学が6校、県立大学が2校、国立大学が2校、合計10大学があります。若い人を集める方策として、教育機関の役割は大きいと考えています。

人口が減っても教育はなくなりません。むしろ教育は重要であり、この奈良で教育を充実させていくことが大切です。私立大学は難しい時代になっていますが、私立大学が6校あるということは奈良県の財産であると考えていただき、その財産をうまく活用するような形でまちに活気を取り戻していくことができればと思います。

— 大学同士の連携協力や良い意味での競争も大事ですね。

10年程前から、6校の私立大学の理事長会が発足し、定期的集まっています。皆さんお互いに気心がよく通じて、建設的にいろんな話をしております。

京都と異なり、奈良には「学生のまち」という

ような感じが弱いと思います。県民の皆さんが大学の位置づけにご理解いただき、大学とともに若者のまちにするというような気運を盛り上げていければと思っています。

——奈良県の観光振興についてはいかがですか。

通信教育部の人たちも言っていることですが、京都は煌びやかで、奈良は非常に地味という見方があります。そういう面を好まない人もいるかもしれませんが、奈良はその美しさ、良いところを十分に出し切れていないと思います。寺社仏閣も沢山ありますが、そのよいところをもっと発信できればよいのと思っています。

奈良県の観光は、修学旅行も含めて通り抜けが多いですね。道路事情が悪く、秋のシーズンになると、奈良市内の一部でひどい渋滞になります。

個々には皆さんがそれぞれ一生懸命やっておられるのですが、県民全体が奈良県観光の現状や課題を共有し、いろいろと議論したり、提案したりしていくことが必要だと思います。

観光立県といいますが、みんながそれぞれの立場に応じて、協働して取り組むという意識を共有していくことが大切だと思います。

通信教育部の人たちは、スクーリングに参加するために二泊三日で奈良に来られます。その方々の奈良での延べ宿泊数は、年間でかなりの数になり、一定の経済波及効果をもたらしているのではないかと思います。

スクーリングに勉強に来られた学生さんたちは、ホテルへ戻ってから夜に出かけたくても商店街の店は早く閉まり、美術館なども終わっているため、何もできないと言われておられます。みなさんから何とかならないかとの要望があり、大学ではならまちセンターでナイトスクーリングという独自の講演会を行ったりしていますが、夜の観光がないというのは寂しいですね。



▶座右の銘 「和顔愛語」

——座右の銘にされている「和顔愛語」の意味を教えてください。

「和顔愛語」(「大無量寿経」にある言葉)は、おだやかな顔とやさしい言葉を意味します。

例えば、怖い顔や不愛想な顔よりも、柔和な顔が良いですね。私も難しい顔をしていることが多く、周りの人から怖いと言われたりするのですが、優しい柔和な表情は大事だと思います。

最近、うちの学生が人工知能(AI)を使って、阿修羅などの仏像の表情に込められた感情を分析していますが、あの方法は面白いと思います。

仏さんにも怒っている顔や優しい顔、微笑んでいる顔など、色々な表情があります。もちろん優しさは大事なことです。が、仏さんの優しい表情は、仏の知恵と慈悲を声なき声で語られていると思います。

和顔愛語は、相手の気持ちを汲み取り受け入れ、人々を利益するという仏さんの心なのです。

▶ 聞思修の三慧が学習の基本

— 教育・学びの基本について、理事長のお考えを教えてください。

インドから中国に伝わった仏教の煩瑣^{はんさ}哲学書の中に、聞思修^{もんししゅう}の三慧^{さんえ}(*)ということがいわれています。悟りを開くために先ず聞く、そして考える、そして実行する、という聞思修の三慧の三つを何度も繰り返す。そうすると螺旋状に掘り下げられていくわけですね。そういうかたちで仏教の知恵というのは得られるというのです。

* 智慧を修行の順序によって三つに分類したもの。經典の教えを聞いて生じる聞慧、思惟・観察によって得られる思慧、禅定を修して得られる修慧。

例えば 500 頁もあるような本でも、適切な人から 30 分程で本の大事な点について聞けるかもしれませんから、読み、かつ聞くということは非常に大事です。やはり、学ぶということの最初は聞くことなのです。そして聞くだけではなく、考える、実際にやってみるということが大切です。その時々に応じてやることも色々ありますが、聞思修の三慧が学習の基本ということです。

— 学生さんや若い方への期待、メッセージをお願いします。

多様性、多様化の時代とよく言われていますが、多様性が良いとか、悪いとかの話ではなく、多様性の理解がないと一面的な理解になりがちです。

国際的な問題だけでなく、身近な隣人との付き合いなどにおいても、多様性を前提として国際情勢や人の生き方を理解することが大切です。

また、多様性の時代において、それぞれ置かれた状況の中でどういう道を選ぶか、どう生きていくかということが重要になってきます。多様性の時代だからこそ、筋を通すというか、一番核となるもの、根本になるようなところをよく見極めることも大事ではないでしょうか。

その核となるものについて筋道を立てて考える、論理的に思索を深め、正しい判断力を培うという訓練をするのが大学の教育だと考えています。

●プロフィール 市川 良哉 氏

■主な経歴

昭和 9 年、奈良県天理市生まれ。昭和 38 年 3 月龍谷大学大学院文学研究科博士課程満期退学。奈良大学文学部講師、助教授、教授を経て、学校法人奈良大学理事長に就任、現在に至る。

奈良大学名誉教授、山の辺文化会議会長、日本私立大学協会理事など。平成 20 年 11 月旭日中綬章受章。

■座右の銘、好きな言葉

「和顔愛語」

■大事にしていること

筋を通すこと

■趣味

読書、散歩など

■私のモットー

自戒と反省を込めてよく考える。

■お勧めの本

「歎異抄」や「正法眼蔵随聞記」など

■私のストレス発散法

よく睡眠をとること

■好きな場所

東大寺など南都のお寺

■所属企業・団体等の概要

学校法人奈良大学：大正 14 年（1925 年）、向学の精神に燃える勤労青年のために、奈良薬師寺境内に設立した夜間制の「南都正強中学」を始まりとする。「心身共に正しく強く」、常に真理を求めて「努力」することを建学の精神として、社会に貢献する有為の人材の育成を目的として歩んできた。

○奈良大学〔文学部、社会学部、大学院、通信教育部〕

所在地：奈良市山陵町 1500 番地

連絡先：TEL 0742-44-1251

○奈良大学附属高等学校〔全日制〕

所在地：奈良市秋篠町 50 番地

連絡先：TEL 0742-41-8840

○奈良大学附属幼稚園

所在地：奈良市西大寺国見町 1 丁目 10 番 1 号

連絡先：TEL 0742-45-7531

（聞き手・文責：島田清彦）